

平成23年度宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	平成23年度第1回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	平成23年7月15日(金) 17時40分～20時00分
場所	宇治市役所 8階 大会議室
出席者	<p>(委員) 榊原会長 園部副会長 金丸委員 芝野委員 薮委員 吉田委員 田邊委員 伊家委員 市橋委員 小谷委員 石津江委員 大槻委員 田中委員</p> <p>(事務局) 石田教育長 中谷教育部長 村田教育部次長 澤畑教育部次長 山花教育改革室長 秋元学校教育課長 貝小中一貫教育課長 芦田小中一貫教育課総括指導主事 瀬野小中一貫教育課総括指導主事 吉田小中一貫教育課計画推進係長 妹尾小中一貫教育課主任</p> <p>(傍聴者) なし</p>
欠席委員	なし
配布資料	<p>資料1 宇治市小中一貫教育推進協議会委員名簿</p> <p>資料2 宇治市小中一貫教育推進協議会の会議の公開に関する要領</p> <p>資料3 宇治市小中一貫教育推進協議会設置要項</p> <p>資料4 宇治市小中一貫教育推進協議会活動概要報告</p> <p>資料5 施設一体型小中一貫校(宇治黄檗学園)の開校準備報告</p> <p>資料6 平成22年度小中一貫教育「実践的研究」の到達状況</p> <p>資料7 平成22年度中学校区を単位としたジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況一覧(概要)</p> <p>資料8 宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について</p> <p>資料9 平成23年度の小中一貫教育の取り組みについて</p> <p>資料10 平成23年度中学校区を単位としたジョイントプラン</p> <p>資料11 平成23年度中学校区を単位としたジョイントプラン集計</p>
1 開会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石田教育長開会挨拶 (石田教育長は他の公務により退席)</li> <li>・各委員自己紹介</li> <li>・事務局紹介</li> <li>・設置要項により会長、副会長を選出 事務局提案により榊原会長、園部副会長を選出 榊原会長、園部副会長挨拶</li> </ul>
2 報告及び協議事項	<p>(1) 宇治市小中一貫教育推進協議会活動概要について 資料4に沿って事務局より説明。</p>

〈質疑応答等〉

(副会長)

広野中学校は3年間の研究指定を受けた。小中一貫教育について各小中学校の教員の意識が高まり、教員同士の情報交換が進んだ。また、それぞれの学校の教員と一緒に事業に取り組むという姿勢が生まれた。現場では様々な取り組みを行っており、事務局には現場を見ていただき、意見を頂戴したい。

(2) 施設一体型小中一貫校(宇治黄檗学園)の開校準備報告

資料5に沿って事務局より説明。

(会長)

6月15日宇治小学校の学校説明会での参加者の雰囲気を見せてほしい。

(事務局)

約130名参加。小中一貫校での教育や中学校の制服について説明。保護者からは部活動についての質問などがあったが、今後の検討課題であると回答している。この説明会では保護者の小中一貫校に対する関心の高さが伺えた。

(3) 平成22年度小中一貫教育「実践的研究」の到達状況

資料6、7に沿って事務局より説明

(委員)

はじめてこのような取り組みを知った。子どもが大きいので、このような取り組みを知る機会が少ない。私自身が子どもの頃にもこのような取り組みがあったらよかったと思った。

(委員)

「平成22年度中学校区を単位としたジョイントプランに基づく小中一貫(連携)教育の進捗状況一覧(概略)」を見ると、課題がないとしている学校もあり、各学校で課題の認識にばらつきがあるように思う。この委員会で小中一貫教育の進行管理を行なうことになると思うが、課題認識が異なるなかでどのような進行管理を行なうのか?

(事務局)

この一覧表は各学校がそれぞれ作成した資料をまとめたもので、事務局の意見に基づいた課題抽出を行っていない。今後、各学校との話し合いを進める中で、事務局の判断基準を加味することにより課題抽出はできると考えている。

(委員)

チーフコーディネーターは小中一貫教育の推進役であり、有効活用は校長の責務と思う。「実践的研究」の到達状況の中で、チーフコーディネーターの有効活用について課題であるとあるが、市教委としての見解はどうか?

(委員)

チーフコーディネーターを務めているが、後補充教員の配置によってチーフコーディネーターとしての活動を積極的に行なえるようになり助かっている。これにより小学校と中学校の連携だけではなく、小学校同士の連携を進めることができたのはよか

った。小中一貫教育の推進はチーフコーディネーター一人ではできないものではない。管理職及び学校全体での協力が必要である。

(4) 宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について

事務局より、市教育委員会職員を全員事務局とした設置要項の改正について、及び本協議会委員として、新たにチーフコーディネーターを委嘱したことについて説明。さらに本協議会の今年度の活動について資料8に沿って説明。

(会長)

現場視察はいつ頃になるのか？

(事務局)

2学期中を予定している。各学校より小中一貫教育の取組について調査を行い、その結果を各委員にお示しし、日程調整を行ないたいと考えている。各委員が参加し易いよう、なるべく多くの日程をお示ししたい。

(5) 平成23年度中学校区を単位としたジョイントプランについて

資料10に沿って事務局から説明。要旨は以下のとおり。

- ・昨年度は後補充教員の配置を拡充し、チーフコーディネーターの持ち授業を0とした。また、平成23年度全面試行の到達目標を立てた。これに基づき、各学校には本年度重点的に取り組む課題設定を指示した。

(会長)

委員として参加されているチーフコーディネーターにはそれぞれの取り組みについて発表してほしい。

(委員)

西小倉校区では外国語活動が活動の特色となっている。また、宇治学については卒業生を招いて行なっている。生徒指導については、3小中学校が連携して小学校から中学校までの9年間を見通して行なえるようになった。また、児童会と生徒会が連携して事業を行なうことを企画、募金活動の案が出ている。

ほかに、小学校教員が中学校の授業に参加している。中学1年生が知っている小学校の先生が、中学校の授業に参加することで、生徒が授業に取り組み易い環境ができている。昨年度の積み重ねが今年度に活着していると実感しており、さらに各学校の教員同士の連携を進めていきたい。

(委員)

小学校、中学校のお互いのよさを活かすことが大切だと感じている。取り組みについて、子どもが安心して学ぶには小中ギャップを解消することが必要であり、スムーズに小学校から中学校に移行できるようにしていきたい。これを目標としてお互いの授業の公開などを実施し、教員同士の情報共有を進めている。

後補充教員の配置によりチーフコーディネーターが動き易くなったのはよかった。地域とともに子どもを育てるという視点と、目指す子ども像を明確にすることによって、がんばっている子どもをクローズアップしていく。今年度は来年度の全面実施のステップアップと位置づけているが、全面実施で小中一貫教育が終わるものではなく、

あくまで通過点と考えている。引き続きがんばっていきたい。

(委員)

授業を持っているとコーディネーター同士で会うことさえ難しかったが、後補充教員の配置で持ち授業がなくなることにより、相手の予定に合わせるできるようになった。小中一貫教育を進めるためにはそれぞれの小学校、中学校それぞれの教員のそれぞれの立場を理解することが必要。学期に1日小中一貫教育の日を設定。全教員が動ける環境を整えた。また、全教員が参加する3つの応援部を作った。小学校の教員は12歳の子どもは想像できるけど15歳の子どもは想像できない。そこで、15歳の子ども像を具体的に考えて、共通の子ども像を創り、その子ども像を目指すことにより、課題を把握し、解決に向けて取り組んでいる。

(会長)

教員間の日程調整が難しいとの話があった。各学校の教員数のボリュームが影響しているのか？

(事務局)

宇治市で最も多い木幡中学校ブロックでは教員が100名を超える。最も少ないところで50名から60名ほどである。

(委員)

小学校と中学校の教員が相談しあえる雰囲気が出来てきたのが成果である。9年間を通じた教育活動が構築されつつあり、今後も宇治市としての独自の仕組みづくりを進めるべきである。現地現場主義だけではなく、宇治市としての小中一貫教育のビジョンを示す必要があると思う。

(副会長)

学校ではチラシを配るなどして小中一貫教育を地域に広報しているが、あまり伝わっていないのが現状である。事務局には効果的な小中一貫教育の広報を検討してほしい。また、宇治黄檗学園は宇治市初の小中一貫校であり話題になると思うが、小中一貫教育校への更なる支援をお願いしたい。

(会長)

今回の会議では各委員からたいへん貴重な意見をいただいた。最後に一言ずつお願いしたい。

(委員)

全国に比べ、京都府は問題行動が多いと聞いている。小中一貫教育の取り組みによって、問題行動が減少することを期待している。

(委員)

小中一貫教育を進めるためには教員だけでなく保護者や地域もがんばらなければならない。

(委員)

小中一貫教育は子どもにとってとても良いことだと考えている。分散進学の問題は必要である。また、分散進学によって小中一貫教育からもれる子どもが出てこないよ

うに配慮してほしい。

(委員)

青少年健全育成協議会は小学校区単位で形成されているが、中学校区を単位とすることを考えてもいいかもしれない。また、難しいとは思いますが、事業の企画段階で中学生に参画してもらうこともいいかと思う。

市教育委員会では人材バンクや社会人講師といった取り組みがあると聞いている。このような取り組みを活用すれば教員の負担が減ると思う。

(委員)

もちつきなど地域の祭りを青少年育成協議会で行なっている。テント張り、演奏などは中学生、出店は文教大学の学生と地域を巻き込んで実施している。このような取り組みから、顔が見える地域づくりを目指している。

宇治市ならではの小中一貫教育を見失うことなく進めてほしい。

(委員)

子どもが、自分たちの地域の学校に行きたい、と思える学校づくりを目指していきたい。夢のある教育について発信していくことの大切さを改めて感じている。

### 3 閉会

- ・中谷教育部長より閉会の挨拶